



中央区 与野本町小学校 教諭 下山京子

## 1 はじめに

本校の児童は学習に真剣に取り組むよさをもっている。その一方で、自分の思いや考えを発表することに自信をもてない児童が多いことが課題である。そこで、伝え合う活動を通して自分なりに思考し判断し、進んで発信していく児童を育てたいと考え、国語力向上の研究に取り組んでいる。

## 2 具体的な取組

### (1) 国語科を中心とした取組

#### ①書く活動の工夫

自分の思いや考えをもつために「書く」活動は最も有効な手だてである。また、教材研究を進める中で、モデル学習の重要性やその活用がクローズアップされたことから、モデル文作りにも力を入れている。学習活動の中でモデル学習・書く活動を効果的に位置付けるとともに、ワークシートの工夫などの実践を通して、自分の思いや考えをしっかりとつことができるようになってきた。

#### ②伝え合う活動や場の工夫

自分の思いや考えがもてるようになると、相手に伝えたいという気持ちが高まる。そこで、学習の様々な場面で、ペアや3～4人のグループで伝え合う場を設定し、お互いの考えの交流を図った。それは、多様な考え方に触れ、個の考えを高めることにつながった。また、個の考えが高まることにより、全体での話合いも次第に活発になってきた。

#### ③指導と評価の工夫

伝え合う活動の充実には、児童相互の認め合う関係の構築や教師の評価の工夫が必要である。机間指導に伴う適切な評価は、

自分の考えに自信をもたせ、意欲的な発表へとつながった。また、友達から良いところを認められたりアドバイスを受けていたりすることで、さらに学習に前向きに取り組み、学びの楽しさを実感できるようになってきている。

### (2) 日常の取組

伝え合う活動では、言葉で考え、言葉で表現することが求められる。日常から言葉の力を磨くための手だてを工夫することや言語環境を整えることが大切である。その一環として、隔週水曜日と毎週金曜日の朝の時間にチャレンジタイムを位置付け、年間計画にしたがい実践している。視写や言葉集めの他、朝のスピーチや詩の暗唱など幅広く言葉の力を育む取組をしている。チャレンジタイムで取り組んだプリントは廊下に常掲するとともに、国語コーナーを設けて児童の目にふれるようにし、児童の言葉への意識を高める機能をもたせた。また、語彙を広げる読書活動に力を入れ、学年の発達段階に応じて読書賞を設けたことで、児童も積極的に本に親しんでいる。



## 3 おわりに

国語の学習において、児童はさまざまな交流を通して個の考えを高めつつある。他教科においても国語で培った表現力や思考力等を生かし、その教科の特性に応じた交流の場を積極的に設定し、国語力向上に努めたい。